

アクティブ福祉

第48
2022.3

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



動画部門 最優秀賞

「東京の介護って素晴らしい
グランプリ2021」
受賞作品。
結果はP6▶



写真部門 優秀賞
「白寿のお祝い」



写真部門 優秀賞
「届け!僕の音色」

P2-3 特集

〈対談企画〉

介護現場におけるICTの導入、 デジタル化への取り組みについて

P4-5 アクティブ福祉in東京'21表彰式

P6 東京の介護って素晴らしいグランプリ2021
結果報告

P7 新時代旋風
若手の育成と福祉の未来

P8 グランドデザイン推進委員会
活動報告

P13 東京ケアリーダーズ活動紹介
活動報告

9... ● 専門委員会リレートーク
第15回:制度検討委員会

10... ● 養護分科会トピックス

11... ● 軽費分科会トピックス

12... ● センター分科会トピックス

14... ● 職員研修会トピックス

15... ● 私の心に残るエピソード

15... ● 編集後記

16... ● 介護の魅力PR動画



Facebook
更新中!



高齢協
ウェブサイト



Instagram



HOUREIKYOU



高齢協
会長
@koureikyo



YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会



対談 企画 介護現場におけるICTの導入、デジタル化への取り組みについて

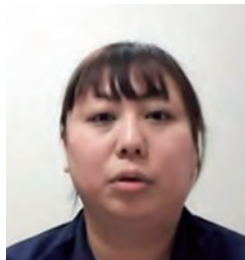
介護業界では職員の負担の軽減や介護環境改善のため、ICT(情報通信技術)の導入やデジタル化が進められています。今号では、各施設での取り組み事例と、田園調布学園大学の村井祐一教授からの今後の導入に向けたアドバイスを紹介します。

※本対談は2月16日にオンラインで開催されました。発言や肩書は当時の状況に基づきます。

各施設の事例 ICTがもたらす様々なメリット

——自施設、近隣事業所等でのICT導入の取り組みについてお聞かせください。

福島 介護記録をデータ入力にしたことで、1台のPCで記録を見られるようになり、職種間での連携がしやすくなったと感じています。ICT導入のための施設改修はハードルが高く、遅れがちです。オンライン面会の需要もあり、当面の希望は施設内Wi-Fiの導入です。



▲ なりひらホーム
福島かなえ(生活相談員)

村井 建物の改修以外にも、工事なしで使用できるポケットWi-Fiの導入という選択があります。また、東京都のデジタル環境整備促進事業の助成金活用も検討されるとよいと思います。

勝又 業務システムをiPadで利用することにより、記録作業をどこでも行えるようになり、業務の効率化が検証できました。しかし、従来のやり方を望む職員には効果が薄く、どのように利用を促すべきかという課題も感じています。



▲ 特別養護老人ホーム
三ノ輪 勝又 宏

村井 メリットに対する理解の差が原因だと考えられます。ICT利用により得られる組織全体の利益が手間に見合ったものとなることを、具体的に説明して納得してもらうことが、利用促進につながると思います。

長島 施設内各所にカメラを設置、職員の死角での転倒などの事故原因の究明などに役立っています。スマートフォンの連絡網アプリを使うことで、職員とのコミュニケーションがとりやすくなり、情報伝達がしやすくなりました。

村井 見守りシステムは今後、事故につながりそうなお利用者の動きの兆候をAIが分析し、アラートを出せるように発展することが予想されます。しかし、危機管理の上ではシステムにすべて任せるのではなく、介護職の専門性が必要な場面が出てくるでしょう。



▲ マイライフ徳丸
長島 利恵

島崎 近隣の養護老人ホームの事例ですが、インカムの導入が連絡のしやすさやリアルタイムでの情報共有につながったそうです。また、管理者はご利用者への言葉づかいを把握できるため、職員の声掛けがより丁寧になったり、救急搬送時の連携が迅速になったりする効果があったとのことでした。



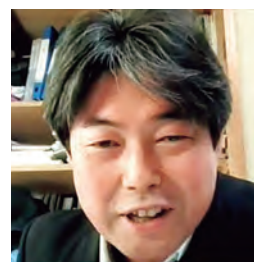
▲ 浅川ホーム
島崎 勝弘(養護)

導入の際は施設に必要な機能を整理し、事前に十分な検証を

島崎 施設の大規模な改修を予定していますが、注意点を聞かせください。

村井 全エリアをカバーできる電源とWi-Fiの整備を行いましょう。プライバシーへの配慮を前提とした、見守り用ウェブカメラの設置箇所も意識されるとよいでしょう。

鈴木 東京都のモデル施設として様々なICTを導入し、必要な情報がすぐに得られて全体を把握しやすくなったことがメリットだと感じています。例えば一日の食事状況や水分摂取量の記録はその方の生活の課題把



▲ 砧ホーム 鈴木 健太

握につながり、職種間で瞬時にコミュニケーションを取ることによって適切なケアを選択できます。

導入の際には現場で使いづらいということが発生しないよう、デモ機で検証をして、少し足りない機能があるならばメーカーに改善を要望します。

村井 ICT導入後に実際は使いづらいというケースが散見されます。多大な費用がかかるため、導入前にしっかり時間をかけてチェックすることが重要です。メーカーのプロモーションに飛びつくのではなく、施設で必要とするものの基準を明確化し、それに適合するかどうかで選ぶべきです。

また、ICTはあくまで職員の連携などに役立つ補助ツールで、主役は介護に携わる方々です。現場の介護職が中期・長期的にご利用者にとどのようなケアを提供したいかを意識し、ケアを通じた記録をICTを活用してモニタリングするサイクルが必要です。

目的(=情報を活用してよりよいケアを提供すること)と、手段(=業務を自動化すること)をはき違えることなく、費用対効果も意識して導入を検討しましょう。

情報を活用し、本質的なケアの質の向上サイクルを

加藤 iPadを利用した記録や眠りスキャンなどを導入しています。また、訪問介護ではスマートフォンで記録の入力・閲覧などができる業務支援システムを利用しています。iPad利用者とともに映画やスポーツなどを鑑賞するツールにもなっています。眠りスキャンは眠りの状態に応じた介助、医師の睡眠薬処方調整などとても重宝しています。



▲ 偕楽園ホーム
加藤 美鈴(看護師)

村井 皆様の導入事例でも記録の話が多く挙がりました。ネットワークを活用した記録は時間と場所を問わず入力と閲覧ができることと、検索できることが最も便利な機能ですが、これは一次的なメリットです。

二次的な機能として重要なのは、質の高い情報をまとめ、再利用性を高めて運用することです。ケアプランと実際の記録で整合性が取れているか随時確認し、そこから得られた知見をケアに反映すべきでしょう。

情報化には、職員の情報活用能力を育てることや、ご利用者やその家族が情報を収集し発信することも含まれます。



▲ 田園調布学園大学
村井 祐一教授

——情報活用について職員を育成するにはどのようにすればよいでしょうか。

村井 介護の知見を発信することが、情報共有となり、職員の育成につながります。

共有を推進するにあたっては、周囲の反応も大切です。発信された情報に対してフィードバックされることは、発信者のモチベーションの向上や、知見に対するさらなる気づきにつながります。施設の管理者や上司は、現場の職員が発信した情報に対して、積極的にコメントなど反応をして、双方向的なコミュニケーションを推進してください。

——本日はありがとうございました。最後に一言お願いします。

村井 介護ICTツールはまだ成熟に至っておらず、製品の良し悪しがあります。製品を成熟させるためには、メーカーが施設の声を傾聴し、ニーズを反映して開発を進める必要があります。また、システムを利用する施設同士でユーザー会やコンソーシアムを作り、改善の要望の声をまとめて届け、メーカーと製品を改良するような取り組みをしてもいいと思います。ぜひ施設側から声を上げて、介護におけるICTの発展を促していただきたいと思っています。

■ 記録・編集 東京新聞 木下 聡文



▲ オンライン対談の様子

アクティブ福祉in東京'21 表彰式

アクティブ福祉in東京の表彰式は1月に集合型で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け中止となりました。
優秀賞受賞者の皆様には賞状とトロフィーを送付し、コメントをいただきました。
受賞者の皆様、おめでとうございます!!

テ — マ A	食事・栄養・口腔ケア／医療・看取り介護
施 設 名	東京令和館 中野
発表者氏名	松山貴恵さん
主 題	常食がもたらす入居者の食事の楽しみへの効果と、さらなる食生活への改善



▲ 松山貴恵さん

受賞施設からのコメント

この度はアクティブ福祉にて優秀賞をいただき、初めは信じられないという驚きでした。時間の経過と共に、徐々に実感が沸き、今は本当に嬉しく光栄に思います。

受賞の一報は、私自身入院中の病室で知りました。受賞者通知書面の写真が添付され、「おめでとう！」の一言を添えた同僚からのメールに、当初何のことが全く分からず、内容を知った時は、何かの間違いではないか？、他の方の演題と取り間違えたのではないかと正直思いました。なぜなら、他の施設等の演題がとても興味深く、素晴らしい内容ばかりで、選ばれるとは到底思えなかったからです。

今回の受賞で、当施設の多職種連携による取り組みから生み出した成果に対し、評価いただけたことは今後の励みにつながるものとなります。

これからも多職種連携の下、「施設入居者のために」を常に念頭に置いて考え、研鑽を積んでいきたいと思えます。

抄録はこちら▼



テ — マ B	リハビリ・アクティビティ・レクリエーション ／日常ケアの向上／認知症ケア
施 設 名	長渕園
発表者氏名	鈴木謙太郎さん、力丸仁美さん
主 題	特養で身寄りがない利用者への在宅復帰支援



▲ 左から力丸仁美さん、鈴木謙太郎さん

受賞施設からのコメント

この度は、アクティブ福祉in東京21にて優秀賞をいただき、誠にありがとうございます。利用者様の希望する生活を実現させることを目標に、この2年間行ってきたので、結果として優秀賞を受賞できましたことが、とても大きな自信となり、大変嬉しく思います。今回発表した在宅復帰支援については、関係者の皆様のお力添えもあり無事に在宅復帰を実現できました。この場を借りて関係者の皆様方には感謝申し上げます。

抄録はこちら▼



テーマC	経営・リスクマネジメント・品質・人材確保・離職防止
施設名	神明園
発表者氏名	井上祐介さん
主 題	事業継続計画の実行性を高める取り組み



▲ 左から中村直人さん(共同研究(実践)者)、井上祐介さん

受賞施設からのコメント

事業継続計画の実行性を高める取り組みというテーマで発表させて頂きました。

昨今の地震や台風・豪雨による水害等の災害によって多くの被害がもたらされています。そしてそれはごく身近な事であり、決して対岸の火事ではありません。更に新型コロナウイルスというかつて経験した事のないようなパンデミックまで起きています。その様な中で不安無く対応出来る様なBCPの策定・更新を続けていかなければならないと思います。今回の発表をきっかけとして災害に対する意識が少しでも変わって頂けたのなら幸いです。

ありがとうございました。

抄録はこちら▼



テーマD	福祉用具・介護ロボット・ICT・IoT・AI
施設名	ケアポート板橋
発表者氏名	隅田素子さん
主 題	厨房における食材発注ミスの撲滅



▲ ケアポート板橋 栄養課の皆さん

受賞施設からのコメント

ケアポート板橋では毎年、全部署対象でTQM活動を実施しております。今回の栄養課における業務の質改善活動は、ご利用者にとっての「食の楽しみ」に繋がる入口作業であり、ミスをするによりその楽しみを奪い兼ねない状況となります。

エビデンスに基づき、データ収集やPDCAサイクルを回し続ける事で、提供する側もされる側にも無形・有形の効果が生まれます。これからもご利用者の輝きの1日の為に、尽力して参ります。ありがとうございました。

抄録はこちら▼



読者モニター からのご意見 (一部抜粋)

読者モニターの皆様から
いただいたご意見を
紹介します!

- ✔ 進んでいく方向性を示すような特集は良いと思った。期待を抱く内容だった。
- ✔ 特集は具体的なビジョンが伝わらない部分もあり、もう少しわかりやすい説明があると良い。
- ✔ 軽費分科会TOPICSの「withコロナにおける活動」は、内容も濃く写真も有効で、見ていて明るい気分になれた。
- ✔ 良い記事もあったがボリュームが足りず余白が多いページもあったように思う。
- ✔ 12月号なのでクリスマスの飾付けの表紙の写真は、明るくて良かった。

いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

令和4年度 読者モニターの募集

令和3年度に引き続き、読者モニターを募集いたします。

●依頼内容

機関誌に関する客観的なご意見やご感想を伺います。WEB上の回答フォームから入力いただく予定です。(必要時間：15分程度)

(1) 依頼回数

令和4年度内 全4回

(令和4年6月・8月・12月、令和5年2月) 予定

(2) 対象

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所 職員20名

(3) 謝礼

クオカード 2,000円分 (1回あたり500円×4回)

●応募方法

次のいずれかの方法

(1) 右記QRコードから応募フォームに直接アクセス

(2) 東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト トップページからトップページ→「機関誌・タブロイド判」をクリック→申し込みフォームより入力

●応募締切

令和4年4月29日(金)まで

※応募数が多い場合、抽選により決定いたします。



—東京の介護ってすばらしいグランプリ2021 結果報告—

介護の仕事の魅力を広くPRする年に一度のグランプリイベント。
 今年は次の作品が最優秀賞、優秀賞に選ばれました！詳細は高齢協ウェブサイトから。

🎬 動画部門

最優秀賞

A story - 奥田 義胤

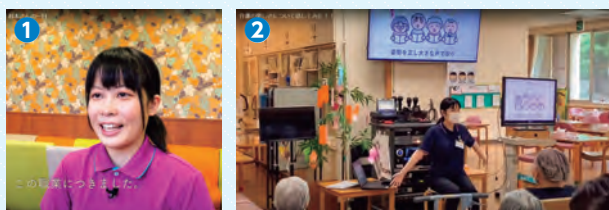
テーマ：密着ドキュメンタリー動画「〇〇さんの1日」



▲ 最優秀賞動画の一部

優秀賞

- ①【密着取材で見えた】介護の本質・本当の魅力 杉本さんの一日
- ②介護の楽しさについて話してみた



✍️ コラム部門

最優秀賞

「ファンレター」

はじめにお便りさせていただきます。

私は、最近あなたのことを知ってファンになったものです。

面と向かって伝えるのは難しいから、手紙を書きました。

(中略)

この先、どんなことがあるかはわからないけど、できれば少しでも長く、あなたのことを応援していきたいと思っています。

それでは、またお手紙を書かせてくださいね。

優秀賞

- ①エール
- ②お風呂にまつわるエトセトラ



📷 写真部門

最優秀賞

～温もりあるひとときを～



優秀賞

- ①届け！僕の音色
- ②白寿のお祝い

🍳 レシピ部門

最優秀賞

見ためもカラダもほっこりする南瓜グラタン
 社会福祉法人清明会 養護老人ホーム浅川ホーム



▲ 完成の様子。レシピは動画で確認いただけます。

優秀賞

- ①ぷるぷる豪華な 小田巻蒸し
社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑
- ②鶏団子入り 生姜であったか豆乳スープ
社会福祉法人青芳会 特別養護老人ホーム今井苑



新時代旋風

社会福祉法人仁愛会 松原サナホーム

施設長 さいとう 齋藤 ゆたか 裕

①若手の育成と福祉の未来

12月の委員会内の独自企画（研修）において、高校生の新卒採用と育成に関してやまと苑の千坂委員より報告頂きました。基本的な挨拶、マナーはもちろん、お金の使い方まで教えたり、親の代わりに警察に呼ばれたり、親御さんに相談したり等、多岐にわたるサポートの実績を紹介頂きました。また、第二南陽園の工藤委員からは、「福祉をみらいにつなげようプロジェクト」について紹介頂き、学校等へ様々な職員が授業をしに出向き、高齢者についての理解を深め、子どもたちが放課後に法人の敷地へ自然に顔を出すようになったことを報告頂きました。職員の活躍の場となり、日常の仕事とは違ったやりがいへとつながったようです。

②異業種交流

3月の研修では、コロナ禍における職員のモチベーションUP、不安を抱えながらも信念を持ってご利用者を支えること等をテーマに、山田美智子様【元NHKアナウンサー、介護記録ソフトちょうじゅ（ケアカルテ）の開発など】から講演頂きました。管理者としてコロナ禍の中、職員にどのような関わりが求められるかを、前向きに学ぶことができました。

グランドデザイン推進委員会活動紹介

社会福祉法人アゼリヤ会 あかね苑

施設長 おおすみ まさる 大住 優



「いつまでも安心して暮らせる東京へ」

2017年に東京の高齢者福祉施設の課題をまとめ、地域のためにどのような高齢者福祉を目指すべきかを提言した「アクティブ福祉グランドデザイン」が高齢協で策定されました。

大都市東京の福祉、地域の包括ケアの担い手としてどのような役割を果たすべきなのか、また役割をどのように果たしているのかを都民の皆様へ知っていただきたくことを目的に、以下の7つの宣言を行動指針として会員施設に発信しています。

- 1 私たちは、質の高い高齢者福祉・介護サービスを提供します。
- 2 私たちは、地域が求める高齢者福祉・介護サービスをつくります。
- 3 私たちは、さまざまな課題を抱える高齢者の暮らしを守ります。
- 4 私たちは、生活困窮者支援などの地域公益活動をすすめます。
- 5 私たちは、地域の防災拠点としての役割を果たします。
- 6 私たちは、高齢者福祉を担う人材の確保をすすめます。
- 7 私たちは、地域に貢献する福祉人材を育てます。

「グランドデザイン推進委員会の役割について」

7つの宣言と会員施設事業所の取り組みをつなげ、独自の事業活動を共有し、それぞれの会員施設が福祉・介護の充実増進に取り組んでいることを周知したい。そのために委員会では「会員施設個々の取り組みが、実はグランドデザインと関係していて、東京の福祉・介護に貢献している」を明らかにするべく、会員施設向けに各宣言事例調査を検討しています。

この7つの宣言と会員施設の実践を通して国政や東京都の施策、次期介護保険制度改正への提言・発信力につなげ、高齢者福祉の充実や介護報酬の改善に向けて、都民の皆様の賛同を得るべく資料や報告書を作成していきます。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

高齢協ウェブサイトからYouTubeで東京ケアリーダーズによる7つの宣言動画が見られます。ぜひ視聴してみてください。

▶ 7つの宣言動画は
こちらから



委員長：軽費分科会長・鶴岡哲也

委員：養護分科会長・酒井雄佑 センター分科会長・今裕司

支援センター分会長・鈴木博之 養護分科会副会長・原口晋一

軽費分科会・森太 特養分科会・田代航也、大住優

● 専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会(※)に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

15 回目
制度検討
委員会

制度検討委員長

社会福祉法人博仁会 和楽ホーム

施設長 みやざわ よしひろ
宮澤 良浩



活動の内容

制度検討委員会では、年間6回程度の委員会をとおして、介護保険制度上の諸問題について実態調査等を実施しています。その中で見えてくる大都市東京としての諸課題について分析し、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する活動をしています。

《今年度の活動》

毎年、8月に実施している「東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査」は、都内特別養護老人ホームの相談員の皆様にご協力をいただき、各専門委員会が実施されている調査の中でも高い回収率の調査となっており、各施設の相談員の皆様の待機者調査に対する意識の高さと、危惧される都内に於ける施設整備の進展への意識の高さを感じております。今年度の調査結果から明らかになったポイントをご紹介します。

【令和3年度東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査】

- ①待機者名簿の管理は、23区では「各施設と自治体」、多摩東部・西部では「各施設」が最も多く、自治体によって待機者名簿の管理に違いがあり、実際の待機者数を明らかにするには申込及び名簿管理を全都的に統一するなどの改善が必要。
- ②入所申込者像として、低所得者、医療ニーズの高い方、身寄りや身元引受人等が不在の方など、入所に至るまでにハードルが高い方が増加しており、入所申込をされても、一定程度の方が名簿に残り続けているため『待機者＝入所（居）者』とはならない。
- ③令和2年度の都内特養での退所者数は9000人を超え、1施設平均で24.7%、およそ1/4の退所者が各施設の発生している。
- ④都内の特養で年間89万床が空床となっており、空床理由は入院による空床の他、施設の体制や職員配置、待機者の減少など、各施設が直面する課題が見えた。
- ⑤ショートステイ床を特養ベッドに転換した施設が増加傾向にあり、当該年度までに全体で391床が転換されている。

予定している取り組み

来年度も調査項目を見直しつつ、「特別養護老人ホーム入所（居）待機者等に関する実態調査」を実施し、都内全域での待機者等の動向、地域別の諸課題などを分析します。また、介護保険制度に於ける制度上の課題などの検証を含め、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動につなげていきます。

令和3年度東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者▶
に関する実態調査の詳細はこちら



※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

変わりゆく高齢者社会に向かって

● 社会福祉法人松楓会 養護老人ホーム松楓園 施設長
 ばば よしろう
馬場 義郎

養護老人ホーム松楓園は、昭和30年に委託保護施設として認可を受け、事業を開始して、67年を迎えます。当法人は、介護保険制度の特別養護老人ホーム2施設と措置制度の養護老人ホームからとなり、共存しながら社会のニーズの多種多様化に対応しながら事業を展開しております。長期化する新型コロナウイルスの予防対策で、増々措置控えは解消されず、定員割れが続き、今までにない厳しい運営となっております。介護保険制度では、2021年の補正予算で、介護職員などの給与改善が行われることになりましたが、認知度の低い措置制度の養護老人ホームは対象外となり、【国】・【都】の助言を受け、職員の給与改善の実現に向けて、措置先である各市区町村へ「措置費及び事務費の引上げ」に関する要請活動を行い、本来、措置を必要とするDV・精神疾患・知的障害及び社会的適応困難者などの受け皿として地域社会に必要とされる施設をこれからも目指してまいります。



松楓園の外観



春の庭園の様子

▶ 養護老人ホーム松楓園
 ホームページ



軽費老人ホームの役割と当施設の取組み

- 社会福祉法人ワゲン福祉会 都市型軽費老人ホームワゲン本所 施設長
はまだ 濱田 昌宏

● 軽費老人ホームとは

軽費老人ホームは、ご自宅で暮らすことに不安のある高齢者が収入に応じた料金で入居できる施設です。安心安全な生活を送るための支援サービスを福祉や介護の専門職が提供しています。軽費老人ホームには4つの種類があります。食事が提供されるA型、住まいの確保を目的とする自炊式のB型、居室等の環境が配慮されたケアハウス、土地の確保が困難な都市部でも住まいを確保できるように基準を緩和した都市型軽費老人ホームです。どの軽費老人ホームも精神的・社会的・経済的な面等で生活に課題を抱え、社会的にも孤立しがちな高齢者や地域の住民をも視野に入れたより専門性の高いソーシャルワークに基づく支援が求められています。

● 当施設の取組み

当施設は定員20名の小規模な施設です。当施設では、季節や行事に合わせた食事だけでなく、入居者のお誕生日にはご希望を伺って食事を提供しています。また、令和2年4月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が出されてから屋外でのレクリエーションを見送り、施設内・少人数での活動を行っています。オンラインを活用してお花見や紅葉狩りも行いましたが、早く直接目の前で桜や紅葉を観賞できる日が来ることを願っています。

▶ 都市型軽費老人ホーム
ワゲン本所のホームページ



新年の行事食(マグロ丼1食400円)、
この日はお刺身好きな入居者のお誕生日です。



ワゲン本所のリビング兼食堂
(ここで体操やレクリエーションも行います。)



クリスマスレクでは、サンタ役の入居者が他の入居者へプレゼントを渡されました
(詳細は当施設HPのブログ参照)。

地域と健康でつながる

● 小平市地域包括支援センター多摩済生ケアセンター
センター長 伊藤 高行

コロナ禍のため、地域包括支援センターが関わる様々なイベントも中止や延期、規模の縮小を余儀なくされています。そのため地域の方向士が集まれる事が難しくなるとともに、外出の機会も減ってしまっているのが現状です。

そこで、楽しみながら外に出ることと介護予防を目的として、令和3年8月より「いきいきチャレンジウォーク」を開始しました。

小平駅を起点として北ルート・南ルートを設け、北ルートには9カ所、南ルートには8カ所の公園や介護事業所等をポイントとして立ち寄れるよう協力を得ました。

ポイントごとに体操や脳トレを掲示しており、ルートを巡りながら掲示されている体操や脳トレにチャレンジすることで健康を維持しようという仕組みになっています。

また、取り組みやすくするために小平市のマスコットキャラクターである「ぶるべー」を使用したポイントカードを作成し、ルートを1周するごとに「ぶるべー」を塗りつぶしていきます。30周すると簡単な健康グッズを景品として差し上げています。

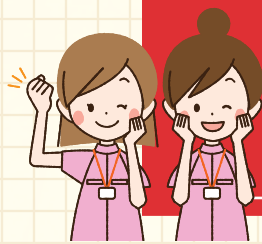
「歩くことで健康になり、外に出ることで人同士のつながりを生み、景品でさらに健康になる。」そんなきっかけ作りになれば良いなと思っています。



小平市マスコットキャラクター「ぶるべー」



いきいきチャレンジウォークのルート



東京ケアリーダーズ 活動紹介



東京ケアリーダーズとは？

東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。メンバー全員が特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設で働く現役の介護福祉士です。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。



「もうすぐ完成!!」

大三島育徳会 博水の郷 ばんもと たかや 番本 鷹也

皆さんこんにちは、東京ケアリーダーズのリーダーをしています番本です。

私が東京ケアリーダーズに任命されたのは結成当初なので約6年前、今年の秋には活動7年目に突入するこのケアリーダーズ。結成された目的は、介護の魅力伝えること。この目的の為、メンバーそれぞれが現職の介護職員としてリアルな声で介護の魅力伝えてきました。

しかし、ここ2年ほどでケアリーダーズの活動内容は大きく変わってきました。コロナ感染症対策に伴い、なかなか直に魅力を伝える活動が出来ない状況になってしまいました。

そんな中でも私たちの目的は変わらず、今までとは形を変えて何か魅力を伝える方法はないのかと考えた結果、たどり着いた一つの目標は「介護の魅力が詰まった本」を作ること。コロナ禍になってから私たちの活動はほぼ本の作成に力を注いできました。メンバーをはじめとする現職の介護従事者の方数百人にアンケートを行い、それを基に私たちが編集・構成し、少しずつ本の完成に向けて奮闘してきましたが2022年に入り、ようやく完成が近づいてきました。

すでに本の名前も決まっています。タイトルは「YOSUGA」。

この名前の由来は、日本語の古い言葉「よすが」からとったもので、意味は心のよりどころ。

介護をする人が体験したたくさんの喜怒哀楽なエピソードが詰まった1冊です。福祉業界で仕事をしている人には共感してもらえる内容となっており、介護を経験したことのない人にもきっと介護の魅力がたくさん伝わる1冊になっていると思います。また、イラストやメンバーの写真もふんだんに盛り込んでおり気軽に読んでいただけるように工夫しています。今回掲載している写真も冊子用に撮影した1枚です。明るい雰囲気作っているので是非読んでみてください。それでは、完成まで今しばしお待ちください。次回の活動紹介でお会いしましょう！



冊子用に撮影したケアリーダーズ集合写真

● 職員研修統括委員長
特別養護老人ホーム中川園 施設長

さくらがわ かつのり
櫻川 勝憲

リモート研修

今年度、職員研修委員会（事務、相談員、介護、栄養、看護、機能訓練、ケアマネジャーからなる職種別委員会と人材育成委員会）で行った研修は、新型コロナウイルスの収束にめどが立たないこともあり、当初は集合体とリモートの両方を考えていましたが、その殆どがリモート研修でした。



コロナ禍で何とか集合型で開催できた際の研修会の様子
(ソーシャルワーク・アカデミーより)

内容は、令和3年度介護報酬改定があったためLIFEや加算に関すること、そして新型コロナウイルス対策。また、従来からの「サービスマナー研修」「労務関係」「報酬請求事務」「ソーシャルワーク」「介護技術等」「食事形態」「人材育成」を実施しました。

今後の研修スタイルと内容

来年度も新型コロナウイルス感染症の動向を見つつ、集合体とリモートによる研修スタイルを考えています。また令和3年度介護報酬改定から1年が経過することもあり、それらを検証し各職種別研修委員会で次なる研修を検討して、会員施設に提供いたします。

従来からのサービスマナー、事務関係、ソーシャルワーク、介護技術、栄養、機能訓練等は引き続き実施いたします。また人材育成委員会が毎年行っている「チームマネジメント研修」で培った集大成として、研修テキストを作成して今後の人材育成研修に生かします。

私の心に残るエピソード

社会福祉法人三交会 青葉台さくら苑 医務課 課長
 たなか よしあき
 田中 良明



平穏死を望む利用者に触れて

「もう食べたくない。お父さん、逝くからね。」

こうつぶやいたのは103歳の女性の方です。手つなぎ歩行ができて、食事介助も必要なかった方でした。この言葉を発してから急に歩くことも食べることも起きることもほとんどなくなりました。本人が「自然なままで死にたい」と語っていたと、ご家族から聞いていました。そのため、施設で看取りをすることになりました。1週間後、いつもと変わらない穏やかな表情で大往生を遂げられました。ご家族に見守られながら、本人が望む負担のない自然な最期でした。

入院すれば、点滴や経管栄養を導入することで少しは長生きできたかもしれません。しかし、延命治療を望まない人にとっては、不本意な終末期を過ごすことになってしまいます。延命治療は本人の意思とは関係なく、人体を生かし続けるからです。

吸収できない点滴は浮腫¹につながり、一度始まった胃瘻²は誰にも止めることはできません。

近年、介護・医療業界では平穏死が注目されていますが、現実として平穏死ができる施設は少ないと聞いています。特養は平穏死が望める数少ない場所です。

私達は、本人と家族が満足し納得できる最期を送っていただくことを望んでいます。そのために、本人と家族、職員同士で日々意志疎通を図っていかなくてはならないと実感しています。

1 浮腫：顔や手足などの末端が体内の水分により痛みを伴わない形で腫れる症候。むくみ。

2 胃瘻：腹壁を切開して胃内に管を通し、食物や水分や医薬品を流入させ投与するための医療措置。



編集

後記

暑さ寒さも彼岸まで……

通勤途上急に春を感じる景色が心を和ませてくれる。色鮮やかに目に飛び込む春の色、ほのかに香る春の匂い平和を感じる。いま世界で起こっている出来事を見るたびに高齢者施設の方やご自分では動けない在宅の方は大丈夫なのだろうかと心が穏やかではいられない。いまだに続く目に見えないコロナ感染症は高齢者施設にとっては脅威ではない。クラスター発生に心を痛め、涙した。しかしながら、先の見えないWエチコロナの日々をひたすら使命感でこのコロナと戦ってくれている介護職、関わる関係職員には本当に感謝しかない。アクティブ福祉の広報誌今月号に2つの表彰の様子が掲載されている。利用者への愛を感じつつでも多くの笑顔の為に取組が発表されていた。コロナ禍であっても沢山の出来ることを見つけ、未来をつなげる東京の介護は素晴らしい！新年度が始まり心新たに笑顔でスタートです！心に残るエピソードを刻んでいきたい平和を願って。

特別養護老人ホーム 清明園
 施設長 大川 富美

TOPICS
高齡協

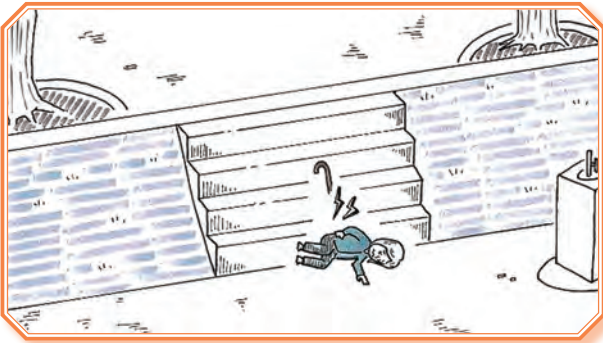
介護の魅力PR動画

介護の仕事の魅力を発信するべく、1人の女性を主人公として、その一生と介護の関わりを描いたパラパラアニメ動画を作成しました。ぜひご覧ください！

↓ 動画の場面 少しだけお見せします 📺

▼ 高齢者福祉施設への入所

外出中に転倒し要介護状態となり、特別養護老人ホームへ入所します。



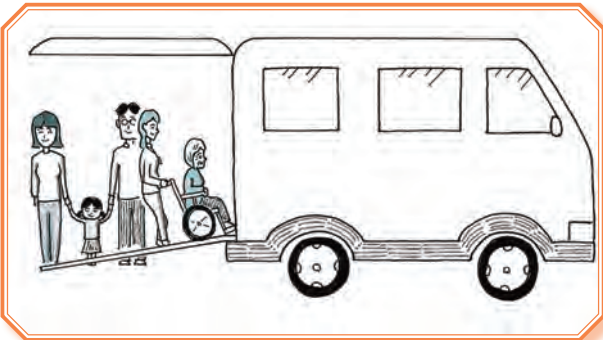
▼ 支えられる日々

入所当初、主人公は落ち込んでいますが、介護職員や入居者との交流により、次第に明るさを取り戻していきます。



▼ 家族との最後の外出

お別れのときが近づき、家族と施設職員で話し合い、「看取り」の一環として、職員は思い出の場所へ外出することを提案。家族と共に、職員の介助を受けながらお出かけし、楽しい時間を過ごしながら人生を振り返ります。



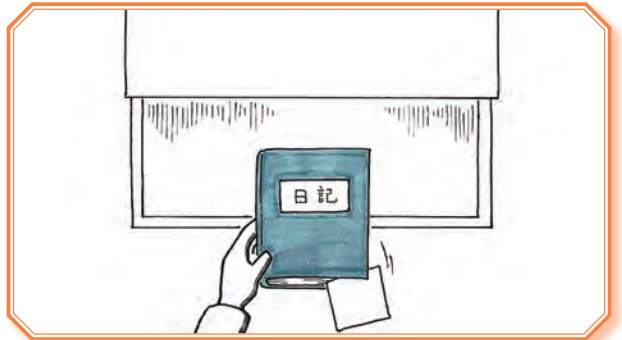
ショートバージョン



フルバージョン

▼ 感謝の気持ちをつないで

最期の時を迎えます。部屋に残された日記には、感謝のメッセージが挟まれていました。



YouTube で検索